

コミッサオン・ヂ・フレンチ 「強大なるソー神」

振付 プリシラ・モッタ、ホドリゴ・ネグリ

神々の中でも、最も勇猛なソーこそ、主神オーディンの望みを実行し、魔法に包まれたドイツを紹介することができる唯一の存在である。その比類なき力強さとたくましさに加え、神々の用いる武器の中でも最強と目されるミョルニルの鎚を操る。コミッサオン・ヂ・フレンチは、この戦う神のみがこれほどの力を持つこと、そしてサブカイが彼の力にひれ伏すべきことを示す。

ヴェーリャ・グワルダ（伝統的な衣装で登場）

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ（第1ペア） マルキーニョスとジョヴァンナ 「魔法のダンス」

オーディンが治める天界で、月明かりの夜に不思議な生物が踊る。そして通りに出て、森の守備兵たちに守られながら、人々に挨拶をし、人々を魅了する。

第1山車 「オーディンの治める天界」

オーディンの意向に従い、雷神ソーは任務を遂行する。そのために天界と人間界を行き来する際に、風や嵐が巻き起こる！雷鳴と雷光の中、ソーがサンバの道に降り立ち、ウニードス・ダ・チジューカによる魔法の国ドイツを表現するパレードの道を開く。

第1部 神話

第1アーラ（バイアーナス）「ワルキューレ」

神話に登場するワルキューレは、オーディンが遣わす、勇ましく美しい戦士で、人間界の戦場の上を飛び、天界の最終戦争においてオーディンやソーの下で戦わせるように、最も勇敢だった戦死者を天界へ導く。

デスタッキ・ヂ・シャオン ヴァレスカ 「自然界の存在」

第2アーラ 「エルフ」

人間界と天界との間に、エルフが棲んでいる。純粋で魔法の力を持ち、森や山や水を守っている。

第3アーラ 「竜」

オーディンが治める天界では、竜は海や湖や洞窟の奥底に暮らし、宝物の番をしている。ワーグナーのオペラでは、英雄ジークフリートが悪しき竜を倒し、ニーベルクンの宝を勝ち取る冒険談が語られる。

第4アーラ「聖なる木」

このパレードでは、謎めいた森の木々は狼によって守られている。また、その枝には、オーディンの使いであるカラスがとまり、目を光らせている。

デスタッキ・チ・シャオン デウマ「森の魔力」

第5アーラ「妖精」

妖精たちは森を徘徊し、動植物を守っている。人の眼に見えないように姿を隠すことができる。

第6アーラ「ノーム」

通常、地中の奥深くで、ノームたちは魔力を込めた宝飾品や武器を作っている。しかし、チジューカのカーニバルでは、キノコに座って飽きることなく騒いでいる！

第2山車「不思議の森」

古代のドイツ人たちが思い描いた、神話上の不思議な森、そしてそこに棲む不思議な生き物たち。ノーム、ゴブリン、エルフ、妖精、怪物、動物などに着想を得た超常的な物語が、あらゆる芸術の形で広まっている。彼らが今、魔法の力を用いて、現れたり消えたりする。

第2部 芸術

第7アーラ「ブレヒトの演劇」

泥棒、売春婦、物乞いなどは、ベルトルト・ブレヒトの演劇によく登場する人物像である。「三文オペラ」はイギリスの支配階級の姿を風刺的に描き出している。

第8アーラ「ベートーベンの音楽」

歴史上最も偉大な作曲家のひとり。聴覚を失いながらも、多くの交響曲、ソナタ、協奏曲を生み出し続けた。本日のパレードで、ベートーベンは自らの生み出した和音と遊ぶ。

デスタッキ・チ・シャオン パトリシア・シェーリダ「契約」

第9アーラ「ゲーテのファウスト」

知識と力を得る代わりに、自らの魂を悪魔に売り渡したファウストの伝説は、詩人ゲーテの着想源となった。

第10アーラ「フランツ・マルクの色使い」

ドイツの表現主義を代表する画家フランツ・マルクの色使い。その代表作「青い馬」には、ドイツ

人らしさが顕著に反映されている。

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ(第3ペア) ヘナートとハヤーニ「嘆きの天使」

マルレーネ・ディートリッヒが出演した映画「嘆きの天使」では、謹厳実直な教員がキャバレーの歌手に魅了される。このパレードでは、2人の天使がサンバの魔力に取り込まれる。

第11アーラ「嘆きの天使」

それまでほぼ無名だったマルレーネ・ディートリッヒが、映画「嘆きの天使」での演技で世界中を魅了した。同作品が描き出したキャバレーの雰囲気、サンバ会場に広がる。

第12アーラ「メトロポリス」

フリッツ・ラング監督の映画「メトロポリス」に登場する女性型ロボットを表現する。ある未来都市で、労働者たちは地下に暮らし、地上の人々の用いる各種施設を機能させる機会の維持管理のために奴隷的な労働に従事している。

第3山車「幽霊船」

今年、史上有数の作曲家であるリヒャルト・ワーグナーの生誕200周年にあたる。そのオペラ「さまよえるオランダ人」は、七つの海をさまよいつけるように呪われた船長の乗った幽霊船の伝説を基にしたものである。その呪いを解くには真の愛に出会わなければならない。

第3部 昔々、、、

第13アーラ「おもちゃ」

ニュルンベルクには、遊びとゲームにあふれた、売店、工場、展示場、テーマパークの複合施設として、本当の「おもちゃの世界」が存在する。

第14アーラ「おとぎ話」

ヤコブとヴィルヘルムのグリム兄弟による童話は、昔話や伝記を掘り起し、子供向けの魔法にあふれた話に作り変えたものである。

第14アーラ「ハーメルンの踊り手」

グリム兄弟によって有名になった民話「ハーメルンの笛吹き男」では、街を荒らしていたネズミたちを、謎の笛吹き男が自ら奏でる音楽の不思議な力で操る。

ハイーニャ・ヂ・バテリア ジュリアナ・アウヴェス「音楽の着想」

ハイーニャ・ヂ・バテリアが、芸術的そして技術的才能にあふれたチジューカの演奏者たちが楽

G.R.E.S. ウニードス・ダ・チジューカ 2013年
“稲妻とともに落ちた轟雷——不思議の国ドイツへの旅にソー神が誘う”
パレード構成・アーラ毎のコンセプト（冊子“O Roteiro dos Desfiles”から抜粋）

器から紡ぎだす音の着想を与える。

第16アーラ（パテリア）「ブレーメンの音楽隊」

童話「ブレーメンの音楽隊」では、ロバ、イヌ、ニワトリ、ネコの4匹が乱暴な飼い主から逃げ出し、音楽隊を結成する。

第17アーラ「人形」

ドイツの素晴らしい「おもちゃの世界」では、15世紀の最初の工場から最新モデルまで、人形の展示に特別な取扱いがなされている。

第18アーラ「プレイモービル」

ドイツの玩具メーカーであるホルスト・ブラントシュテーターが製造し、世界中の子供たちをとりこにしている人形「プレイモービル」を、ドイツの神話をモチーフにして表現する。

第4山車「プレイモービル」

プラスチック製の人形であるプレイモービルは、1974年の登場以来、電子ゲーム等の流行にも関わらず、あらゆる年代の人々に愛されている。プレイモービルは様々な国のテーマパークの題材となっている。そこでは子供も大人も関係なく、農場、インディオ集落、中世の城、海賊船といった冒険の舞台を楽しんでいる。

第4部 発明

第19アーラ「スキューバ・ダイビング」

「潜水の父」と呼ばれるアウグストゥス・ジーベは、金属製のヘルメットと密閉された被服を組み合わせたアクアラングを開発した。これにより、海洋開発に大革命が起こった。

第20アーラ「X線」

ノーベル物理学賞受賞者である、ドイツ人ヴィルヘルム・コンラートレントゲンは、自ら発見した放射線の素性が不明であることから、これを「X」と名付けた。その最初の応用がX線写真である。

第21アーラ「自動車」

ドイツ人カール・ベンツとゴットlieb・ダイムラーは、ガソリン車を製造する最初の2つの工場を立ち上げた。

第22アーラ「ツェッペリン」

20世紀初頭、フェルディナント・フォン・ツェッペリン伯爵は、主に大西洋を横断する旅客用に使

G.R.E.S. ウニードス・ダ・チジューカ 2013年
“稲妻とともに落ちた轟雷——不思議の国ドイツへの旅にソー神が誘う”
パレード構成・アーラ毎のコンセプト（冊子“O Roteiro dos Desfiles”から抜粋）

われた飛行船を発明した。

DESTACKI・チ・シャオン リリアン 「全ての文字がある喜び」

第23アーラ 「グーテンベルク」

15世紀の中ごろ、ヨハネス・グーテンベルクは活版印刷技術を確立した。これにより、書籍や新聞の大量印刷が可能となった。

第24アーラ 「ロケット」

ヴェルナー・フォン・ブラウンは、人類を月へと運んだアポロ11号計画を成功させた主要な責任者の一人である。ブラウンが設計した実用ロケットは現在でも最大である。

第5山車 「人類の月面到着」

ドイツ人ヴェルナー・フォン・ブラウンは、人類の月面着陸という夢を実現させた主要な責任者の一人である。かつて軍事用のミサイルを開発し、NASAに引き抜かれ、アポロ11号を月に送り出したロケットを設計した。

第5部 ブラジルにおけるドイツ

第25アーラ 「アヒル」

ドイツ料理といえば、「全国アヒル祭」が開催されるサンタ・カタリーナ州のブルスキ周辺のドイツ系移民のヒット作である、紫キャベツが添えられたアヒルを欠かすことはできない。

第26アーラ 「ブタ」

「もっと鶏を食べてよ」という子豚たちの懇願には耳を貸さず、ドイツ料理の伝統的な美味要素の2つを召し上がれ。豚肉とソーセージを。

第27アーラ 「シュヴァルトツヴァルト(黒い森)」

サクランボで飾られたチョコレートケーキの由来には諸説あるが、本筋は、その発祥地の名前を冠するアレである。そう、ボーロ・フロスタ・ネグラ(シュヴァルトツヴェルター・キルシュトルテ)。

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ(第2ペア) ヴィニシウスとジャケリーニ 「聖なる味」

ブラジルでは、ドイツ系移民の3兄弟であるエルンスト、フランツ、マックスのノイゲバウアー兄弟が最初のチョコレート工場を立ち上げた。

第28アーラ「チョコレート」

いわゆる新世界のマヤの人々にとって、チョコレートは我々とは扱いが異なり、苦味の食品として、唐辛子と合わせて用いられていた。ヨーロッパ人はこれに甘みを加えることを思いつき、世界の舌をとりこにした。ブラジルでは、1891年にブラジル系移民のノイゲバウアー一家がこの菓子の最初の製造工場を立ち上げた。

第29アーラ「移民」

最初のドイツ系移民がブラジルに到着したのは1820年頃のことだったが、大半は、2つの大戦の間の時期にやってきた。この、言葉も習慣も伝統も大きく異なる人々によって、ブラジルの混合状態に新しい色やリズムが加わった。

第30アーラ「麦畑」

ブラジル人とドイツ人を結ぶビール愛にも、長い歴史がある。1853年、ドイツ系移民のエンヒーキ（ハインリッヒ）・クレメール（クレマー）がリオデジャネイロのペトロポリスでビール製造を始めたことが、ブラジルにおけるビール製造業の発祥のひとつと言われている。

第6山車「祝祭」

ブラジルとドイツには共通した熱情対象が存在する。ビールである。ドイツの人々は、徹底的にビールに捧げる祭、オクトーバーフェストを始めた。ミュンヘンから始まったこの祭は、今や世界中に広まっている。この山車では、稼働中のビール製造工場の雰囲気とたくさんのピアジョッキをお見せする。

第31アーラ（作曲部）（伝統的な衣装で登場）